

# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 12 週（3 月第 4 週）

### （コメント）

感染性胃腸炎及び水痘は、依然流行しています。流行性耳下腺炎は散発しているため注意が必要です。

4 月から WHO の疫学情報のコメント等を寄せていただいている磯村先生に、感染症情報センターのアドバイザーとして参加していただくことになりました。

### （先生方からのコメント）

- ・ ロタ抗原陽性 7ヶ月女  
（豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科）
- ・ かぜも少なくおだやかな週でした。  
（田原町 かわせ小児科）
- ・ ロタ2名（2才男、2才女）  
（岡崎市 医療法人深田小児科）
- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT(-) 4才及び 0-6 VT(-) 5才  
（幸田町 とみた小児科）
- ・ 帯状疱疹 9才女  
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌 0-6 VT(-) 7ヶ月男  
（岡崎市 医療法人川島小児科水野医院）
- ・ ロタウイルス感染症が引き続きみられます  
水痘が少し増えてきた印象です  
（碧南市 永井小児クリニック）
- ・ 感染性胃腸炎 病原性大腸菌 0-1 10~14才男  
（知立市 近藤こどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌4例 0-18(1才女)、0-1(1才女)、0-151(1才男)、0-146(2才女)  
ロタウイルス抗原陽性(9ヶ月女)  
（豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）

- ・ 乳幼児の嘔吐下痢症急増（家族内での発症も目立ちます）  
発熱、咳嗽といったマイコプラズマ様の呼吸器感染症も目立ってきました。  
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ A型インフルエンザ7名  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ ロタウイルス胃腸炎多し  
インフルエンザ様疾患みられず  
（小牧市 小牧市民病院）
- ・ ロタウイルスによる感染性胃腸炎が相変わらず大流行です。  
その他、病原性大腸菌やカンピロバクター腸炎も一部に見られます  
（小牧市 志水こどもクリニック）
- ・ あいかわらずロタ胃腸炎多発しています  
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
- ・ 感染性腸炎、水痘流行  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 感染性胃腸炎で激しい吐瀉がある子が多く、脱水中毒症に至る子もみられます。多くはエンテロウイルス系と思われませんが{病原性大腸菌0-15 1才男、糞便ロタウイルス陽性者2名（4ヶ月男、1才女）、糞便アデノウイルス陽性者 1才男}が含まれます。  
（尾西市 城後小児科）
- ・ 一時減少してきていた感染性胃腸炎が今回はまたやや増加しています。  
（一宮市 田中内科小児科医院）
- ・ 胃腸炎多し  
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
- ・ MCLS 6ヶ月男  
（江南市 河野小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

細菌性赤痢患者3名。

- ・ 江南保健所管内在住の6才女。3/16発病、3/18初診、3/21診定。  
菌型は、ゾンネ 相。フィリピン渡航歴あり
- ・ 岡崎保健所管内在住の15才男。3/17発病、3/18初診、3/22診定。  
菌型は、フレキシネル2a。
- ・ 豊橋市保健所管内在住の34才女。3/20発病、3/21初診、3/23診定。  
菌型は、ゾンネ 相。インドネシア渡航歴あり

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

発生はありません

第 10 週 ( 平成 12 年 3 月 6 日 ~ 3 月 12 日 ) の 4 類感染症の全国状況  
インフルエンザは定点当たり報告数が順調に減少しており、今シーズンの流行はこのまま終息に向かうことが予想される。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は鳥取県で依然流行しており、今週の定点当たり報告数は 7.7 となっている。感染性胃腸炎は患者報告数が急増しており、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別では 1 歳以下が全体の約 4 分の 1 を占め、ピークは 1 歳にある。麻疹は依然大阪府、千葉県、香川県で流行がみられ、患者報告数が多くなっている。非流行期の咽頭結膜熱と急性出血性結膜炎の定点当たり報告数が例年より多くなっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )

庭の隅に咲きはじめた沈丁花と馬酔木を切って教室に生けました。連日 35 のパキスタン・カラチ地区のスラム街の調査から帰り、日本の春の香りを楽しんでいます。いつも貴重な情報を有難うございます。遅くなりましたが 3 月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザ発生は完全に下火になりましたが（名東区高橋先生からはアマンタジン有効なインフルエンザが中学生～高校生で散発中とのお手紙ですが）、各地区でウイルス性の下痢症の発生が続いています。ロタウイルス陽性例が目立ちますがロタ陰性例も多くて脱水による要入院例はロタウイルス陽性・陰性とは無関係に多発、腸重積やイレウスを合併した例の報告もいただいています（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、第二日赤岩佐先生、城北病院渡辺先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、大同病院水野先生）。溶連菌感染症（発疹を伴う例目立つ）、気管支炎・肺炎（インフルエンザ後の合併症が目立つ）、細気管支炎で呼吸困難・要入院例などの呼吸器感染症の報告もいただいています（大同・水野先生、三菱・岩間先生、千種区今枝先生、城北・渡辺先生、国立・松下先生、第一日赤有吉先生）。三菱・岩間先生からは細菌性の大腸炎（サルモネラ、大腸菌 0-18、0-126）の入院例目立つ、第一日赤有吉先生からは保育園でワクチン未接種児の麻疹流行（これではまるでパキスタンなみの途上国と同様です）で入院例ありとの貴重な情報もいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはインフルエンザは激減、感染性胃腸炎多発中で水痘とムンプスが散発中、津島市民病院長田先生からは水痘が散発中でロタウイルスの腸炎は減少、ロタ陰性の下痢嘔吐症あり、江南市昭和病院丸地先生からはロタウイルス感染症が急増中で要入院例が目立ち、RS ウイルス感染症による入院例もボチボチあり、岩倉市永吉先生からはウイルス性胃腸炎が多く年長児に目立ちクラスで半数以上も欠席した事例もあり、常滑市民病院肥田先生からはロタウイルス感染症（要入院例 4 名）が少々残っていて幼児の嘔吐下痢症が少し流行中とのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：豊田地区ではインフルエンザ流行が終焉後ロタウイルス感染症が猛威を振るっていて要入院例が目立ち、胃腸炎に無熱痙攣を合併した入院例あり（トヨタ病院原先生、竹内病院梶田先生）、安城更生病院小川先生からはロタウイルスの胃腸炎の流行が続いていて脱水入院例が目立つ、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎やや多く、乳幼児でロタウイルス陽性例が多く、水痘と溶連菌感染症がぱらぱら発生中、碧南市永井先生からは乳幼児のロタウイルス胃腸炎が流行中で幼児から学童における嘔吐症も目立つ、豊橋市からはマイコプラズマ肺炎、嘔吐下痢症、水痘、ムンプスなどが少し目立つとのお手紙でした（市内宮澤先生、長屋先生）。有難うございました。（文責 磯村）